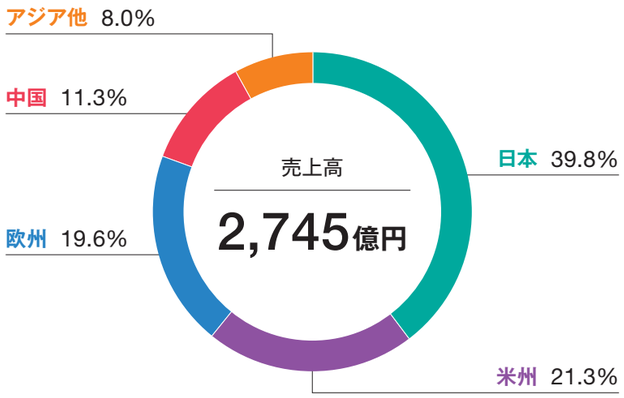
地域別事業レビュー

THKは成長戦略においてグローバル展開を標榜する中、日本・米州・欧州・アジアの4極において「需要地における製販一体体制」を構築しています。2019年12月期は、グローバルで「Omni THK」による販売拡大を推進するとともに、日本において製造業向けIoTサービス「OMNI edge」について正式に受注を開始しました。生産面では、産業機器・輸送機器の両事業における増産投資に加え、自動化・ロボット化やIoTを活用した取り組みによる生産性の向上により、リードタイムの短縮を図りました。2020年12月期も各地域でOmni THKをはじめとする販売体制の強化に加え、OMNI edgeの展開を進めるとともに、柔軟かつ強固な生産体制の構築を加速していきます。間接部門を含めた業務フローでは、システム化を推進することによりお客様へ迅速に製品とサービスをお届けするとともに、グループ全体の生産性向上を図ります。



当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しております。

日 本

事業環境と業績概要

売上高は前期比24.7%減少し、1,094億円となりました。

米中貿易摩擦の影響による中国などの外需の減速を背景に、輸出や生産に弱い動きが見られる中、当社グループにおいては、それまで全般的に好調に推移し積み上がった受注残を着実に売上高に繋げましたが、減収となりました。

2019年12月期の取り組み

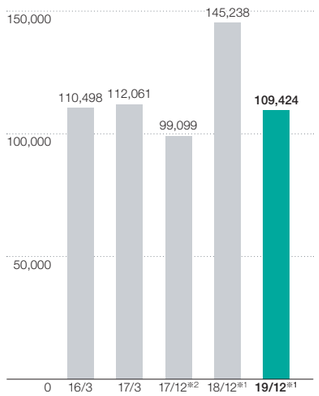
● 販売面

デジタルテクノロジーの進展により、当社製品の中長期的な需要の拡大が見込まれる中、製造業向けIoTサービスである「OMNI edge」について2019年12月にLMガイド向けの受注を正式に開始するとともに、ボールねじ向けのトライアル募集を開始しました。

● 生産面

2019年3月に山形工場における増築が完了し、輸送機器事業のメイン工場の一つであるTHKリズム九州でも新規大型案件に向けた増築が完了しました。生産性向上に向けた取り組みでは、自動化・ロボット化を推進するとともに、デジタル技術を活用した各種施策を展開しました。

売上高
（百万円）



※1 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しております。
※2 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

米 州

事業環境と業績概要

売上高は前期比2.3%減少し、583億円となりました。

内需を中心とした経済成長が続く中、当社グループでは製販一体となって既存顧客の深耕を図るとともに、自動車をはじめ医療機器や航空機、エネルギー関連など新規分野の開拓に努めました。しかしながら、エレクトロニクス向けを中心に需要に調整が見られたことなどにより、減収となりました。

2019年12月期の取り組み

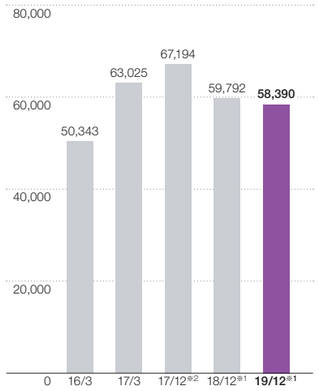
● 販売面

既存顧客の深耕や競合奪取によりシェア拡大を図るとともに、キャラバンカーを活用した展示会の開催などにより幅広い顧客向けの営業活動を推進しました。さらに、医療機器をはじめ、航空機やロボット関連などの新規分野における営業活動を積極化し、新たな需要の創出を図りました。

● 生産面

業界で唯一、北米に生産拠点を持つ強みを最大限に活かし、客先要求に対応した生産活動を進めるべく、製造リードタイムの短縮を図るとともに、自動化をはじめとする機械稼働率の向上などによる生産性向上を図りました。輸送機器事業ではTHK RHYTHM NORTH AMERICAにおいて増築が完了しました。

売上高
（百万円）



※1 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しております。
※2 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

欧 州

事業環境と業績概要

売上高は前期比6.6%減少し、537億円となりました。

米中貿易摩擦の影響などにより輸出や生産などに弱い動きが見られる中、当社グループにおいては製販一体となって既存顧客の深耕を図るとともに、自動車をはじめ医療機器や航空機、ロボットなどの新規分野の開拓に努めましたが、減収となりました。

2019年12月期の取り組み

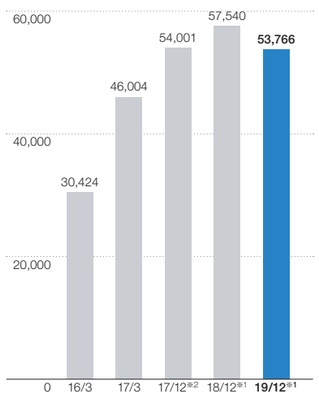
● 販売面

既存顧客の深耕に加え、幅広い顧客向けの販売拡大に向けた各種取り組みを積極化させました。加えて、医療関連、食品関連、ロボット関連などの新規分野における競合奪取に向けた取り組みを加速させました。

● 生産面

加工・組立工程において作業の分析を行い、新たな機械導入など、さらなる自動化やロボット化を推し進め、生産性向上を図りました。加えて、IoTの推進により工程管理の自動化を図るなど、さらなる工程改善を推進しました。

売上高
（百万円）



※1 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しております。
※2 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

中 国

事業環境と業績概要

売上高は前期比36.2%減少し、309億円となりました。

米中貿易摩擦の影響により設備投資に幅広く調整が見られました。そのような中、当社グループにおいては、それまで好調に推移していたエレクトロニクス関連、自動化・ロボット化関連などにおける需要を売上高に繋げましたが、減収となりました。

2019年12月期の取り組み

● 販売面

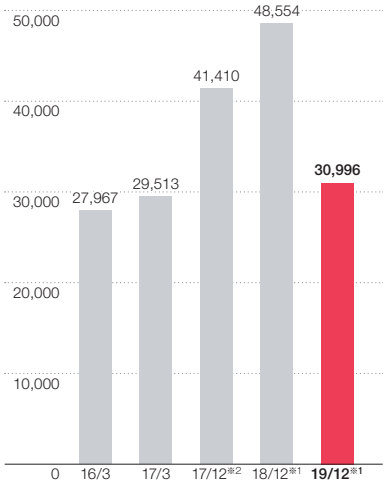
既存顧客の深耕に加え、幅広い顧客向けの販売拡大を図るべく、販売網の拡充や展示会における集客数増加に向けた施策を展開するとともに、Omni THKにおける販売店、登録者数、販売品目を拡大させました。

● 生産面

各工程における作業の分析に基づく自動化・ロボット化の推進や、IoTを活用したデータ集計・分析などにより、さらなる生産性の向上を図りました。輸送機器では、THKリズム常州における増築が完了し、トップライン拡大に向けた準備を着実に進めました。

売上高

（百万円）



※1 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しております。
※2 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。

アジア他

事業環境と業績概要

売上高は前期比34.4%減少し、220億円となりました。

インド・ASEANをはじめとして当社グループ製品への需要の裾野が着実に広がる中、当社グループにおいては販売網の拡充に加え、既存顧客の深耕を図るとともに新規顧客を開拓すべく積極的な営業活動を展開しました。しかしながら、一部地域で中国における需要の減少の影響を受けたことなどにより減収となりました。

2019年12月期の取り組み

● 販売面

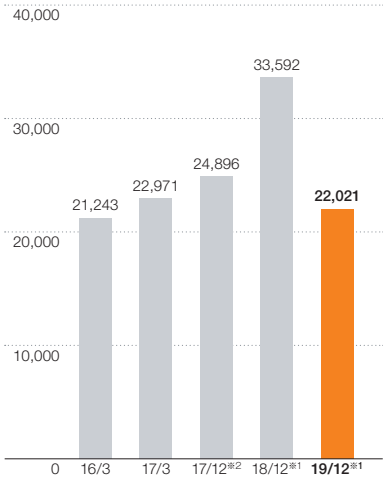
台湾では既存顧客の深耕とともに、間接販売網の強化に加え、短納期対応品の市場投入によりトップライン拡大を図りました。ASEANでは幅広い顧客向けの販売拡大に向け、Omni THKの展開を強化しました。さらに、電動アクチュエータの拡販に向けた各種取り組みを展開しました。

● 生産面

各工場の生産工程における自動化・ロボット化の推進により、さらなる生産性の向上を図りました。中長期的な需要拡大が見込まれるインドでは新工場の建設に着手しました。

売上高

（百万円）



※1 当社グループは、2019年12月期よりIFRSを任意適用しており、2019年12月期との比較のため、2018年12月期の数値もIFRSに準拠して表記しております。
※2 3月期決算の連結対象会社は9カ月間、12月期決算の連結対象会社は12カ月間の変則決算となっています。